



40年前の開幕戦

「本当に野球が出来るんだろうか」。新生関六のプレーボールがかかるほんの少し前まで、多くの選手はそんな不安を抱えていたに違いない。

1931年に発足した関西六大学野球連盟は1962年から入れ替え戦を導入。当時は関西各連盟がそれぞれの連盟組織を維持したまま入れ替え戦で結合する緩い連合体を成していた。

しかし、1982年1月の理事会で組織の解消と入れ替え戦廃止が決定した。翌月14日に関六残留の大阪商業大学と京都産業大学、さらに大阪学院大学、龍谷大学、神戸学院大学、大阪経済大学の6大学によって新関六が結成されることが決まった。

当時の大阪経済大学で指揮を執っていた内田茂監督は一連の騒動を「結成するまで大変やったですね。どう編成するか。毎日毎日帰るのも遅かったですね。旧関六を経験したチームばかりで関六の名前を継いでやるんやからそこで頑張らなアカンなと思ってました」と振り返る。

新関六の開幕日は1982年4月17日。連盟結成からわずか2ヶ月後のことだった。関係者の努力が実って迎えたこの日、快晴の大阪球場には約3700人の観衆が詰めかけ、スタンドにはブラスバンドやチアリーダーの応援団と「K6BL」のロゴが華を添えた。

第1節での観客動員数は約6500人、前年秋の旧関六の第1節の観客数は約800人だったから驚異的な増え方だ。その熱気は当然、選手や監督にも伝わった。

内田監督も「開幕の日はいよいよという気持ちがありました。エースが故障していて大変やなという思いもあったんですけどしっかり勝たなアカンと思ってました」と気合い満点で試合に臨んだ。

谷岡太郎連盟会長の始球式で幕を開けた関西六大学はその日から40年の歴史を刻んだ。現在は連盟の役員となった内田副理事長は「昔と比べて野球が変わったとはあんまり感じないですね。技術は上がったのかな。選手は1年1年が勝負ですからいつでも頑張っていると思っています。特に今年は40周年で節目の年ですし、関六のチームの悲願の日本一を個人としても連盟としても願っています！」と現役選手にエールを送る。連盟としての最高成績は選手権大会準優勝、全国の頂点にはあと1歩届いていない。昭和に黄金期を築いた大阪商業大学、平成の覇者・龍谷大学でも成し遂げられた偉業を達成するのはどの大学か。新時代、令和の熱戦に期待が高まる。



内田茂

うちだ しげる

1946年1月2日生まれ。大阪府出身。右投げ右打ち。大阪高校—大阪経済大学—電電近畿(現NTT西日本)。現役時代は捕手として活躍し1979年から1982年と1997年から2002年の2度にわたって大阪経済大学で指揮を執った。現在は関西六大学野球連盟の副理事長を務める。

参考出典：関西六大学野球連盟20周年記念誌